



2023年、責任投資の先にあるものは？

RBC GAM コーポレートガバナンス・責任投資チーム



気候変動は引き続き優先事項、特に適応とレジリエンスが重要課題



自然保護と生物多様性が本流に



社会的な課題は全ての核心に残る



責任投資の専門用語と透明性に引き続き注目



規制の相違点と共通点

投資家や企業が、今後数ヶ月間で、どのような責任投資に関するトピックや課題に注目するかを考察します。取り上げる5つの課題について、その大部分は進むべき方向性は明かです。一方、スピードや規模、そして、時間の経過とともに、課題がどのように変化していくかについては、まだ不透明な部分が多く残されています。

1. 気候変動は引き続き優先事項、特に適応とレジリエンスが重要課題

科学者や政府は、2050年までにネットゼロを達成するという大きな目標を掲げています¹。2023年は、政策を現実的に実行していくこと、特に、複雑な地政学的・経済的な環境のもとで政策を実行していくことが、引き続き注目されるでしょう。今年は、欧州連合（EU）と英国（UK）で、これまでに制定されたいくつかの政府規制やプログラムが施行されます。それに伴って、実体経済の排出量削減推進に対して、どのようなアプローチが最も効果的なのかという難しい問題が生じています。2022年に経験した熱波、干ばつ、洪水のような異常気象が世界中で続く中、気候の変化に適応し、耐えられるような強靱なインフラと社会を構築する必要性が一層高まっています。こうした必要性によって、政府、企業、投資家は、気候変動への適応とレジリエンスに注目することになるでしょう。

¹ IPCC第6次評価報告書: Impacts, Adaptation and Vulnerability, Intergovernmental Panel on Climate Change, 2022, [Link](#) and The Paris Agreement, United Nations Climate Change, 2015, [Link](#)

2. 自然保護と生物多様性が本流に

2023年には、気候変動の安定化に対する自然の役割と、生物多様性の損失を削減することの重要性が主要な課題となり、政府、規制当局、業界団体が主要な枠組みの制定と計画を進めるでしょう。そのための指針となるのが、2022年12月に開催された国連の生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で合意された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」です。2015年のパリ協定と同様の趣旨で、この枠組みの調印は「自然保護のためのパリ・モーメント」と呼ばれています。重要なことは、COP15の会議で初めて、自然関連リスクへの対応や、自然に根ざした解決策を可能にするために、金融業界の役割に大きな焦点が当てられたことです。自然保護や生物多様性が主要な議題となり、それに応じて今後は、自然関連リスクや生物多様性の損失をどのように測定し、管理するかに焦点が当てられるでしょう。これには、新しいデータや指標、そして情報共有を加速させるための情報開示の枠組みの発展が必要となります。気候変動と同様に、関係者の知見と行動を拡大し、加速させるためには、協力とパートナーシップが不可欠となります。こちらについては、[レポート「投資家の視点から見た生物多様性とCOP15」](#)をご覧ください。

3. 社会的な課題は全ての核心に残る

政治的な分裂、インフレ、食料価格の高騰、エネルギー危機、地政学的な緊張、サイバーセキュリティ、コーポレートガバナンス、気候変動などの課題は全て、社会の広範囲に渡って重要な影響を及ぼしています。企業が、ダイバーシティやインクルージョン、データセキュリティやプライバシー保護、労働者の権利や不平等などの課題についてコミットメントするだけでは不十分です。企業は、その達成度合いを示さなければなりません。2023年には、企業の取締役会と経営陣のダイバーシティに関する議論が、性別だけでなく、人種や民族など、その企業が関わっている社会を反映させるようなダイバーシティ強化にまで拡大していくことが望まれます。また、情報漏洩は、企業や顧客に深刻なリスクとなるため、データセキュリティやプライバシー保護は、引き続き重要な課題であると考えています。企業の従業員は、生活費用の上昇と経済的なプレッシャーに直面し、また、一部のセクターの企業は、労働力不足に悩まされていることから、労働者の権利と不平等は、引き続き重要性の高い課題となっています。企業や投資家にとって、社会的な課題と、事業環境が影響し合う状況は、2023年を通して広がっていくものと予想しています。

4. 責任投資の専門用語と透明性に引き続き注目

昨年は、環境・社会・ガバナンス（ESG）インテグレーションや、責任投資に対する監督が強まり、この分野への注目が高まりました。多くの観点から、ESGが主流として注目を集め、健全で建設的な対話への扉が開かれました。しかし、責任投資に関する専門用語についての混乱や誤解も浮き彫りとなっています。一貫した定義や用語がまだ確立していないため、こうした状況に陥っているのです。カナダ、米国、欧州、英国、日本の規制当局は、責任投資に関する透明性の促進に取り組んでおり、国際サステナビリティ基準委員会（ISSB）などの業界団体は、持続可能性、及び気候関連に関する、共通化された企業の開示要件を確立しようとしています。しかし、専門用語や要件を定義する世界基準が定まるまでは、投資家は、使用する専門用語を明確、透明、正確に示し、ESGに言及する際の用語を注意深く考慮することが重要となります。2023年には、投資家が、資産運用会社の責任投資アプローチの内容を確認し、明確にしようとする行動が活発になり、透明性と情報開示への注目度が高まると予想しています。[RBCグローバル・アセット・マネジメントの責任投資への取り組みについてはこちらをご覧ください。](#)

5. 規制の相違点と共通点

各国政府はESGに関連する様々な分野の規制を定め、アメとムチの両方を用いて、その導入を促進し続けることでしょう。例えば、米国のインフレ抑制法では、気候変動への投資と行動を促進するために、産業界全体でのインセンティブの提供が定められています。欧州連合（EU）では、気候変動国境調整メカニズムが提案され、炭素集約型の製品やEU基準に満たない製品の輸入に追加のコストを課そうとしています。EUのサステナブルファイナンス開示規制（SFDR）は、2023年に発効し、企業の持続可能性の報告に関する指令はその翌年に発効する予定です。また、米国証券取引委員会（SEC）が、今年中に気候関連開示のルールを確定することや、国際サステナビリティ基準委員会（ISSB）がサステナビリティと気候関連のグローバル基準を発表することも予想されています。規制当局は、開示規制に加えて、ESG投資商品の表示規則の制定にも力を入れており、EU、英国、米国、カナダ、日本がこの分野での改正を可決、または提案しています。こうしたアプローチには国・地域を跨いだ共通点がある一方で、明確な相違点もあります。現在の定義や要件は、その意味やアプローチにおいて一貫性がなく、投資家の混乱を招く恐れがあります。様々な規制がどのように発展していくかはまだ分かりませんが、ESG関連の規制は今後も導入されると予想しています。規制への対応が複雑になるにつれ、明確なガイダンス、一貫した基準、そして質の高いESGデータの必要性が高まるでしょう。

ディスクレマー

当資料は、RBC Global Asset Managementの一部であるRBC Global Asset Management (UK) Limitedによって提供された情報を元に、RBC Global Asset Managementの関連会社であるブルーベイ・アセット・マネジメント・インターナショナル・リミテッドが編集したものです。当資料は受領者への情報提供のみを目的としています。当資料の全部または一部を複製することはできません。また、RBC Global Asset Managementの同意なしに他人に配布することもできません。当資料は、証券またはその他の金融商品の売買または投資戦略への参加の申し出を勧誘するものではなく、税務または法律上の助言として解釈されるべきではありません。ここに記載されているすべての製品、サービス、または投資がすべての法域で利用できるわけではなく、地域の規制および法的要件により、一部は限定的にのみ利用できます。

過去の実績は将来の結果を示すものではありません。このレポートに含まれる情報は、RBC Global Asset Managementおよび/またはその関連会社によって、信頼できると思われる情報源から編集されていますが、その正確性、完全性、または正確性について、明示または黙示を問わず、表明または保証は行われません。すべての投資で、投資額の全部または一部が失われるリスクがあります。

この資料には、RBC Global Asset Managementの現在の意見が含まれており、特定のセキュリティ、戦略、または投資商品の推奨を意図したものではなく、またそのように解釈されるべきではありません。特に明記されていない限り、ここに記載されているすべての情報と意見は、このドキュメントの日付時点のもので、ここに記載されているすべての情報および意見は、予告なしに変更される場合があります。

RBC Global Asset Management (RBC GAM) は、カナダロイヤル銀行 (RBC) のアセットマネジメント部門であり、RBCグローバルアセットマネジメント (US) Inc. (RBC GAM-US)、RBC Global Asset Management Inc、RBC Global Asset Managementが含まれます。(UK) Limited、BlueBay Asset Management LLP、BlueBay Asset Management USA LLC、およびRBC Global Asset Management (Asia) Limitedは、別個ですが、関連する企業体です。

RBC Global Asset Management (UK) Limitedは、金融行動監視機構によって認可および規制されています。

®/™ Trademark(s) of Royal Bank of Canada.



RBC BlueBay
Asset Management